

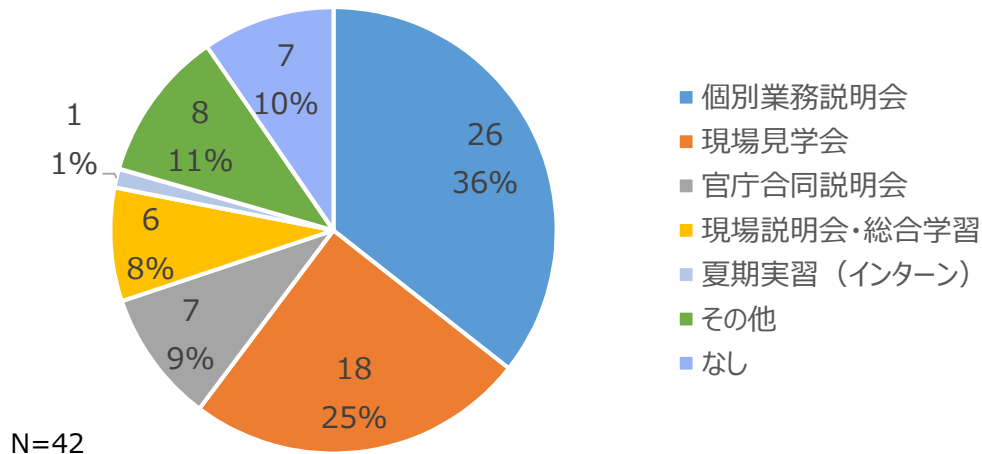
提案議題等

議題 1P 1
議題 2P 6
その他P 10



北陸地方整備局のリクルート情報に関するアンケート（技術）

1) 参加したことがある取り組みがあれば選択してください。（複数回答）



2) 参加した取り組みのうち、参加してよかったと思った取り組みを覚えていたら、その内容、よかった点を具体的にご記入ください。

- ◆個別業務説明会
 - ・少人数での説明会のため質問しやすい
 - ・全体での説明会よりも自分の聞きたいことを詳しく聞くことができた
 - ・不安だったことを相談した際に丁寧に分かりやすく教えてくれた
 - ・直接質問できる機会・時間を長く取っていただけたので、疑問点の解消に役立った
 - ・実際に整備局で働いている方々の説明を聞いてとても参考になった
- ◆現場見学会
 - ・実際にいくつか現場を見れたのが良かった
 - ・実際に職員の方と直接関わることができたのが良かった（説明会はオンラインだった）
- ◆官庁合同説明会
 - ・業務内容の説明の説明が分かりやすく、踏み込んだ内容の説明をしていただけた点
 - ・雰囲気もとても良く一緒に仕事をしてみたいと思えた
- ◆現場説明会
 - ・どのようなことをしているのか詳しく知ることができた
 - ・実際の技官の方とのコミュニケーションの機会があったり現場を見たりできてよかった
- ◆夏季実習（インターン）
 - ・新国のインターンにて幅広い業務を密に知る事ができた
- ◆その他
 - ・官庁訪問：北陸地整の仕事内容について細かいところまで知ることができた。

3) 参加した取り組みで北陸地方整備局への入省を後押しした、または入省の決め手となった出来事や内容を覚えていたらご記入ください。

- ・大河津分水路の話が入省の決め手になった
- ・現場見学会や説明会等に対応してくださった職員の皆さんの雰囲気が良かった
- ・採用担当の職員の方から仕事に対する熱意を伝えていただいた
- ・D Xを用いた仕事に興味を持ったから
- ・規模感の大きな事業に携わることができると業務説明から感じたこと

令和5年度 北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会 富山県部会 議題 議題 1

提案機関名：（一社）富山県建設業協会

議 題	担い手確保の各種取り組みに係る効果検証について
提案理由等	<p>協議会の各構成員におかれては、担い手確保を目的とした、様々な取り組みを継続的に実施しているところです。</p> <p>イベントや出前講座、現地見学会等の開催における学生や一般等の参加者の反応より、建設界の役割や魅力が伝わったと感じることは多々ありますが、具体的な効果（建設界への就業者数の増加等）を定量的に示すことは難しいと考えています。つきましては、各構成員が実施している担い手確保の取り組みに係る評価や効果検証の手法についての事例がありましたらご紹介をお願いします。その他、提案・意見等がございましたら合わせご記入をお願いします。</p>
<p>【北陸地方整備局の事例】</p> <p>北陸地方整備局では入省後の職員に対し、採用前に参加した各種の取り組み参加状況や、取り組み自体の評価、入省の決め手等についてのアンケートを実施している。</p> <p>アンケートは、「個別業務説明会」や「現場見学会」への参加が多く、参加して良かった点は「わからないことや不安なことを整備局職員から直接聞いて良かった」や「実際に現場を見られて良かった」というもの、決め手となった出来事等では「建設DX等の新たな技術に興味を持ったから」「規模の大きい社会資本整備に携われるから」等という結果となっている。</p> <p>※別紙：02_【議題1】参考_北陸地整アンケートを参照</p>	
<p>【意見等】</p> <p>当協会では、現場見学会や女性技術者との座談会の参加者にアンケートを実施しており、就職先の選択に「参考になった」という回答が大半を占めている。</p> <p>事例 R4 県立大現場見学会 参加者 38名 大いに参考になった 11名、参考になった 25名、どちらとも言えない 1名、参考にならなかった 1名</p> <p>R4 富山大学座談会 参加者 21名 大いに参考になった 17名、参考になった 4名</p> <p>回答理由では色々出されているが、「技術者の本音が聞いて、自分の将来が少し想像しやすくなった」「実際に工事現場の様子がわかり、将来のやりたいことがはっきりしてきた」といったものが多いようだ。</p> <p>また、建設系の学科を持つ高校生の進路状況を経年で整理しているが、各種の担い手確保の取り組みの効果に繋がっていると明確には言えない。</p>	

令和5年度 北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会 富山県部会 議題 議題 1

提案機関名：（一社）日本道路建設業協会

議 題	担い手確保の各種取り組みに係る効果検証について
<p>提 案 理 由 等</p>	<p>協議会の各構成員におかれては、担い手確保を目的とした、様々な取り組みを継続的に実施しているところです。</p> <p>イベントや出前講座、現地見学会等の開催における学生や一般等の参加者の反応より、建設界の役割や魅力が伝わったと感じることは多々ありますが、具体的な効果（建設界への就業者数の増加等）を定量的に示すことは難しいと考えています。つきましては、各構成員が実施している担い手確保の取り組みに係る評価や効果検証の手法についての事例がありましたらご紹介をお願いします。その他、提案・意見等がございましたら合わせご記入をお願いします。</p>
	<p>【北陸地方整備局の事例】</p> <p>北陸地方整備局では入省後の職員に対し、採用前に参加した各種の取り組み参加状況や、取り組み自体の評価、入省の決め手等についてのアンケートを実施している。</p> <p>アンケートは、「個別業務説明会」や「現場見学会」への参加が多く、参加して良かった点は「わからないことや不安なことを整備局職員から直接聞いて良かった」や「実際に現場を見られて良かった」というもの、決め手となった出来事等では「建設DX等の新たな技術に興味を持ったから」「規模の大きい社会資本整備に携われるから」等という結果となっている。</p> <p>※別紙：02_【議題1】参考_北陸地整アンケートを参照</p>
	<p>【意見等】</p> <p>当社では、今年4月に富山工業高校土木科の生徒3名（男子1名、女子1名）と立命館大学の文系の女子1名を土木工事部の技術者として、また北陸職業能力開発大学校から電気の学生を1名の合計5名を採用した。立命館大学の学生は、母親が当社で土木技術者として働いていて、採用した女子の妊娠を機に退職したが、「朝日建設で働いていた時は楽しかった」という言葉を本人がよく聞いていたので、当社を志望したとのことであった。</p> <p>しかしながら、来春の内定者は、富山工業高校土木科の男子生徒1名だけであり、大卒は募集中ですが、会社訪問の学生すらいない状況である。</p> <p>しかし、中途採用者は、昨年電気部に2名（1名はヘッドハンティング、もう1名は転職）と土木技術者1名（コンサルタント会社からの転職）の3名、今年は、営業事務職として27歳の男性、新卒で入社した技能職の男性と富山工業高校で同期だった男性（23）、そして一級土木施工管理技士の資格を持つ49歳の女性の3名を採用した。昨年のコンサルタント会社からの転職者は、コンサルタント会社では設計するだけで採用されないこともあり、採用されても実際に物作りに携われないということで、給料が下がるにもかかわらず当社に転職した。今年の3名はいずれも当社社員の紹介での入社であり、当社社員の紹介の場合は、紹介した社員に5万円、紹介された社員が一級土木（電気）施工管理技士の資格を持っている場合、本人に5万円、二級土木（電気）施工管理技士の場合は3万円の謝金を支給している。</p> <p>新卒者より中途採用者の方が即戦力になるので、今後も中途採用者の獲得に注力したいと考えている。</p>

令和5年度 北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会 富山県部会 議題
議題 1

提案機関名： 富山労働局

議 題	担い手確保の各種取り組みに係る効果検証について
提 案 理 由 等	<p>協議会の各構成員におかれては、担い手確保を目的とした、様々な取り組みを継続的に実施しているところです。</p> <p>イベントや出前講座、現地見学会等の開催における学生や一般等の参加者の反応より、建設界の役割や魅力が伝わったと感じることは多々ありますが、具体的な効果（建設界への就業者数の増加等）を定量的に示すことは難しいと考えています。つきましては、各構成員が実施している担い手確保の取り組みに係る評価や効果検証の手法についての事例がありましたらご紹介をお願いします。その他、提案・意見等がございましたら合わせご記入をお願いします。</p>
<p>【北陸地方整備局の事例】</p> <p>北陸地方整備局では入省後の職員に対し、採用前に参加した各種の取り組み参加状況や、取り組み自体の評価、入省の決め手等についてのアンケートを実施している。</p> <p>アンケートは、「個別業務説明会」や「現場見学会」への参加が多く、参加して良かった点は「わからないことや不安なことを整備局職員から直接聞いて良かった」や「実際に現場を見られて良かった」というもの、決め手となった出来事等では「建設DX等の新たな技術に興味を持ったから」「規模の大きい社会資本整備に携われるから」等という結果となっている。</p> <p>※別紙：02_【議題1】参考_北陸地整アンケートを参照</p>	
<p>【意見等】</p> <p>人手不足分野における人材確保支援の強化を図ることを目的として、ハローワーク富山及びハローワーク高岡に「人材確保対策コーナー」を設置し、「求職者に対する担当制によるきめ細やかな職業相談、職業紹介」、「求人充足に向けたコンサルティング」、「各種団体との人材確保に係るネットワークを生かした会社説明会・一社面接会や企業見学会」等を実施し、人材不足分野における人材確保に努めている。</p> <p>・令和4年度一社面接会（うち建設分野） 県内ハローワーク 22回 参加人数 23人 就職者数 7人</p>	

令和5年度 北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会 富山県部会 議題
議題 1

提案機関名：富山県土木部

議 題	担い手確保の各種取り組みに係る効果検証について
提 案 理 由 等	<p>協議会の各構成員におかれては、担い手確保を目的とした、様々な取り組みを継続的に実施しているところです。</p> <p>イベントや出前講座、現地見学会等の開催における学生や一般等の参加者の反応より、建設界の役割や魅力が伝わったと感じることは多々ありますが、具体的な効果（建設界への就業者数の増加等）を定量的に示すことは難しいと考えています。つきましては、各構成員が実施している担い手確保の取り組みに係る評価や効果検証の手法についての事例がありましたらご紹介をお願いします。その他、提案・意見等がございましたら合わせご記入をお願いします。</p>
<p>【北陸地方整備局の事例】</p> <p>北陸地方整備局では入省後の職員に対し、採用前に参加した各種の取り組み参加状況や、取り組み自体の評価、入省の決め手等についてのアンケートを実施している。</p> <p>アンケートは、「個別業務説明会」や「現場見学会」への参加が多く、参加して良かった点は「わからないことや不安なことを整備局職員から直接聞いて良かった」や「実際に現場を見られて良かった」というもの、決め手となった出来事等では「建設DX等の新たな技術に興味を持ったから」「規模の大きい社会資本整備に携われるから」等という結果となっている。</p> <p>※別紙：02_【議題1】参考_北陸地整アンケートを参照</p>	
<p>【意見等】</p> <p>富山県では今年度、建設業の魅力をPRするため、学生向けの建設業に関する情報発信ウェブサイトを作成しています。</p> <p>本サイト公開にあたっては、インスタグラム上で広告配信を予定しており、広告の閲覧状況やサイトへのアクセス状況を分析し、今後の情報発信の改善につなげていきたいと考えています。</p> <p>その他、県職員の採用の関係では、土木職のセミナーに参加した学生や、新規採用職員に対してアンケートを実施し、リクルート活動の参考としています。</p>	

方針1 インフラ分野のDX、働き方改革推進による建設業界の新たな魅力向上の発信

- ▶ リモート・ICT活用や、働き方改革による労働環境改善など、かつてのイメージ払拭により業界の魅力を向上



[リモート形式の現場見学会]



[VR(仮想現実)による工事施工体験]



[女子大学生と女性技術者との座談会]

方針2 建設業界を身近に感じてもらう取り組みの継続

- ▶ 現場見学会、職場体験、出前講座、企業セミナーなど、これまで培った取り組みを継続するとともに、YouTube やリモート見学会等のWebコンテンツの活用により、建設系学校の学生・生徒をはじめ、小中学生とその保護者や教員に対しても、仕事・職業としての建設業に対する親近感を醸成



[小学生の総合学習]



[大学生への業界説明会]

タイムラプス撮影動画【5号橋梁下】



[タイムラプス撮影動画の公開]

取り組み方針(案)

方針3 ターゲットに応じた効果的かつ持続可能な取り組みの実施

▶ 小中学生、高校、大学・高専、若手就業者など対象者に応じて、産官学が連携した取組を推進

取り組み対象者		小中学校 (児童生徒・保護者・先生)	高校 (生徒・保護者・先生)	大学・高専 (学生)	若手就業者
対象者別の 取組み基本方針		<ul style="list-style-type: none"> ■ キャリア教育への参画を推進 ・建設業を職業候補の1つとしてもらうため、進路の探索・選択の基盤形成を育成する教育活動に参加 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 高校・学科に応じたアプローチ ・普通高校等は進路選択につながるキャリア教育、専門高校等は職業教育への協力などから、将来設計の立案に参画 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 将来設計に沿った社会的移行の支援 ・建設系学科の学生の入職を導くため、就職の現実的探索・試行的参加を支援し、建設業に対する勤労観・職業観を確立 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 将来的な担い手の育成 ・技術継承・伝承のほか、若年層の離職対策として、建設業で就業する魅力・やりがいを再認識・共有する取組を推進
取組み実施者	産 協会・企業	<ul style="list-style-type: none"> ■ 総合学習(出前講座) ・建設業の仕事などを紹介する授業等を産官が連携して実施 [主な取組事例] ・土木出張PR(新潟県 他) ・職場見学(北陸地整 他) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 総合学習(出前講座) ・建設業の仕事などを紹介する授業等を産官が連携して実施 [主な取組事例] ・土木出張PR(新潟県 他) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 講師派遣 ・建設業の業務や昨今の動向等に関する講義の実施 [主な取組事例] ・新潟大工学部土木計画学(北陸地整) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 技術力向上 ・若手技術者を対象としたスキルアップセミナーの開催 ■ 若手技術者の交流 ・若手技術者による仕事観等に関する意見交換の実施 ■ 女性技術者の交流 ・建設業で女性が働き続けるために、女性技術者による意見交換の実施 [主な取組事例] ・けんせつ小町(日建連 他)
	官 国・県・市町村	<ul style="list-style-type: none"> ■ 現場見学会 ■ 親子参加型イベント ・児童生徒と保護者が参加する現場見学会などを産官が連携して実施 [主な取組事例] ・親子工事見学会(日建連 他) ・土木フェスティバル(北陸地整 他) 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒や学生が参加する工事現場見学会などを産官が連携して実施 [主な取組事例] ・高校生インフラツーリズム(石川県) ・土木・建築見学会(富山県) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 就業体験・就職支援 ・インターンシップの受入 ・合同企業セミナー(けんせつフェア等) 	
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 情報発信 ・各種コンテンツによるPR [主な取組事例] ・小中学生用パンフレット ・リクルート用パンフレット ・YouTube配信(建設業協会 他) ・若手を対象とした各種研修 				
<ul style="list-style-type: none"> ■ 産官学連携のコーディネート ・関係機関で情報共有や課題認識を図るための継続的な場づくり [主な取組事例] ・北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会 					
学 高校・高専・大学	<ul style="list-style-type: none"> ■ 建設系学校への入学促進 ・建設系学科のある高校・大学等を進学先として選択してもらう取組み推進 [主な取組事例] ・オープンキャンパス[ダ・ヴィンチ祭(富山県立大学) 他] ・高大接続プログラム[KUGS高大接続プログラム(金沢大学)] ・オープンカレッジ[こども石川高専(石川工業高等専門学校)] ・出前授業(長岡技術科学大学、新潟工業高校 他) ・動画作成(新発田南高校) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 高専へのPR ・全国の高専(建設関係)全てを訪問し大学紹介(長岡技術科学大学) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 業界研究の支援 ・OB・OGを招いて建設業の仕事内容やリクルート活動へのアドバイスをを行う説明会等の実施 		

令和5年度 北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会 富山県部会 議題
議題 2

提案機関名：(一社)建設コンサルタント協会

議 題	北陸建設界担い手確保・育成推進協議会の取り組み方針について
提 案 理 由 等	<p>令和4年12月開催の協議会で令和5年度の取り組み方針が確認され、こちらを参考として各構成員が様々な担い手確保に係る取り組みを実施されているところですが、本取り組み方針に関して追加や更新・修正すべき点があればご意見をお願いします。</p> <p>※別紙：03_【議題2】令和5年度取り組み方針（R4.12）を参照</p>
<p>【意見等】</p> <p>方針2：建設業界を身近に感じてもらう取り組みの継続</p> <p>・富山県、(一社)建設コンサルタント協会北陸支部、(一社)富山県建設業協会、富山県測量設計業協会で作成し、県内高校の2年生を対象に配布しているPRパンフレット「みんなでTSUKURU」を、若い世代が気軽に閲覧でき情報収集、また更新も容易となる、ネット(HP作成)版へ変更予定である。</p>	

令和5年度 北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会 富山県部会 議題
議題 2

提案機関名：(一社)日本道路建設業協会

議 題	北陸建設界担い手確保・育成推進協議会の取り組み方針について
提 案 理 由 等	<p>令和4年12月開催の協議会で令和5年度の取り組み方針が確認され、こちらを参考として各構成員が様々な担い手確保に係る取り組みを実施されているところですが、本取り組み方針に関して追加や更新・修正すべき点があればご意見をお願いします。</p> <p>※別紙：03_【議題2】令和5年度取り組み方針（R4.12）を参照</p>
<p>【意見等】</p> <p>私が理事として参加している「三方良しの公共事業推進研究会」の富山県でのカンファレンスが、10月6日に高志会館において、会場参加者126名、WEB参加者130名で開催された。このカンファレンスは、過去に全国の地整所在地と北海道開発局のある札幌市で開催されてきたが、コロナ禍で中断していた。コロナが終息した昨年、高知市で開催され、今年は富山市での開催となった。カンファレンスでは、富山県の荻布教育長からウエルビーイング基調講演</p>	

令和5年度 北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会 富山県部会 議題 3

提案機関名： 富山県立大学

議 題	新たな人材確保の取り組みについて
<p>※ 議論と言うよりも照会の色合いが強い内容です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今後も若者の人口減が継続するなかで、新たな担い手確保等の動向 ・ Uターンによる県内企業への就職の動向 <p>以上の点に関して、情報があればお教えいただきたいと思ひます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人口減における新たな担い手確保等の動向 <p style="margin-left: 20px;">【富山労働局より回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Uターン率について <p>県外大学等に進学した学生のうち県内の企業に就職した学生の割合は以下の通り。</p> <p>H29.3卒 58.4% H30.3卒 58.2% H31.3卒 58.4% R2.3卒 58.0% R3.3卒 57.9%</p> <p>※富山県労働政策課出典</p>	



北陸圏の現状と課題

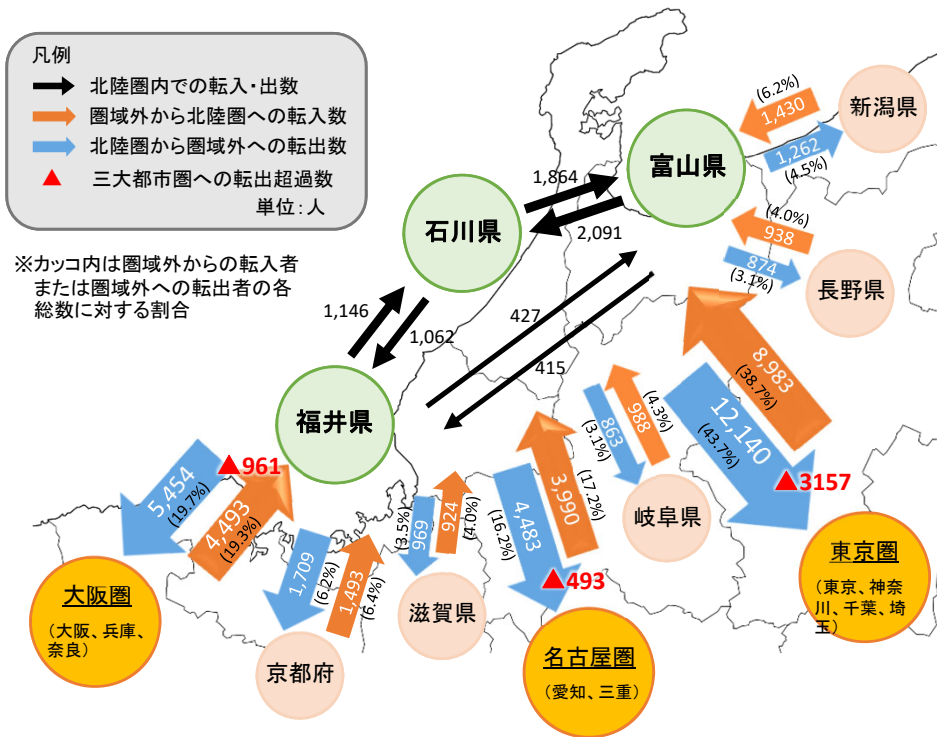
令和4年8月23日
北陸圏広域地方計画推進室

1. 進む人口減少・少子高齢化

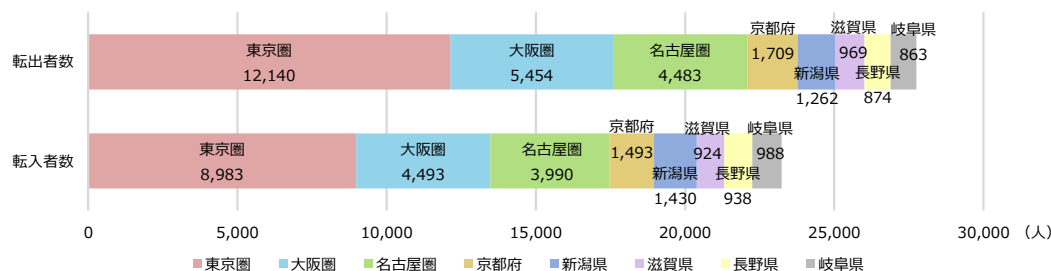
② 県外移動の現状

- 他の圏域との転入・転出の状況を見ると、北陸圏からは3大都市圏への人口流出が多く、特に東京圏への転出超過が著しい。
- 世代別に見ると、20代を中心とした若者の転出超過が多く、また新型コロナウイルス感染症拡大前後の二時期を比較すると、各県とも感染拡大後(令和3年)に増加している。

● 北陸圏における転入・転出状況 (R2年10月1日～R3年9月30日)



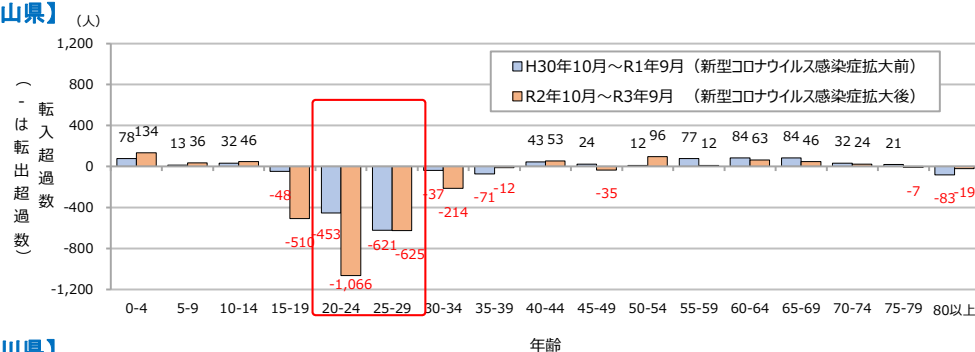
【転出・入者数(三大都市圏・県別)】



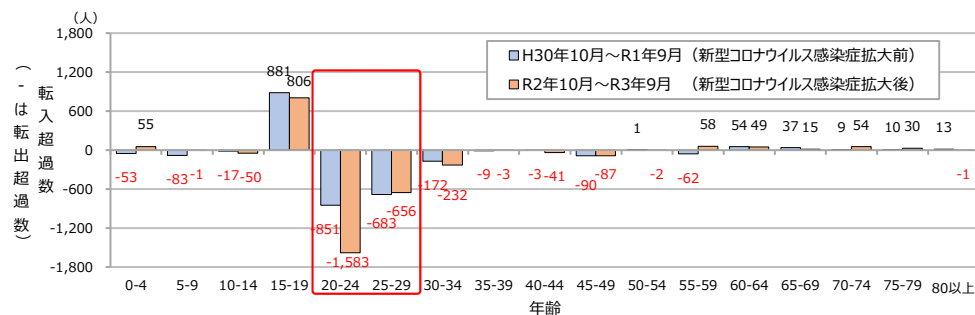
出典: 住民基本台帳人口移動報告(総務省)

● 世代別の県外移動

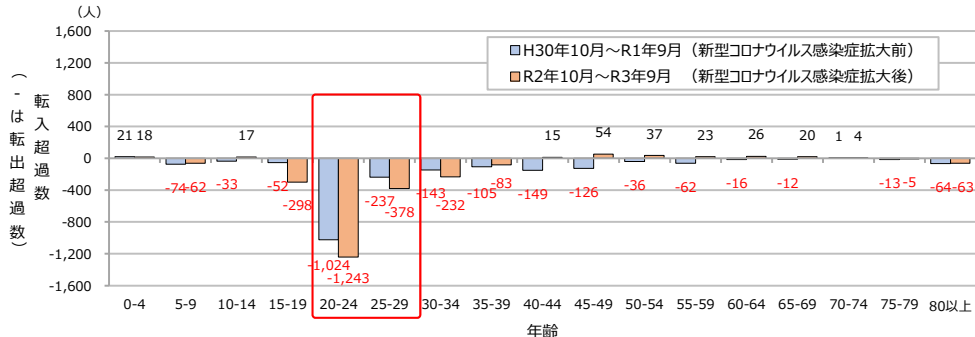
【富山県】



【石川県】



【福井県】



出典: 富山県の人口(富山県),石川県の人口と世帯(石川県),福井県の推計人口(福井県)

1. 進む人口減少・少子高齢化

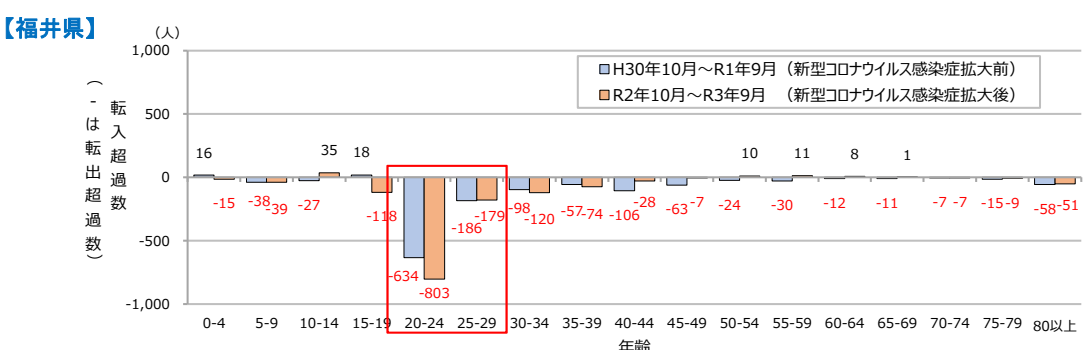
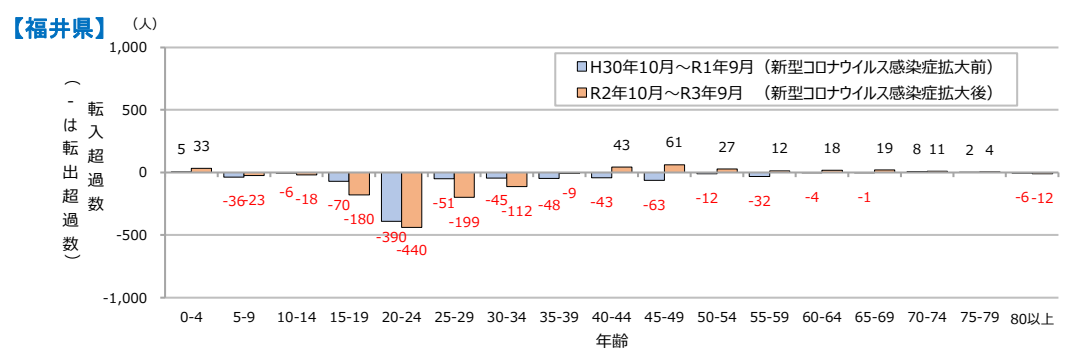
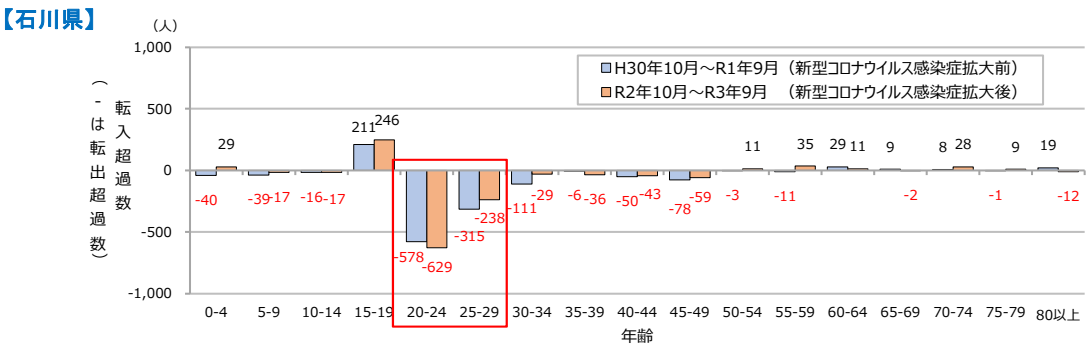
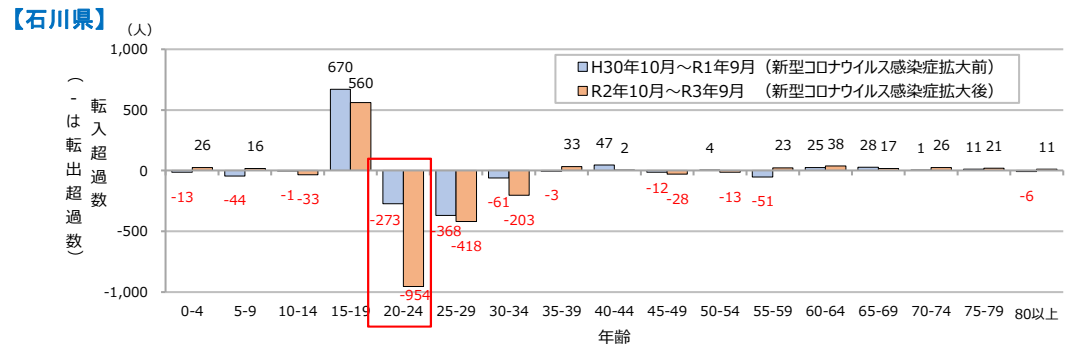
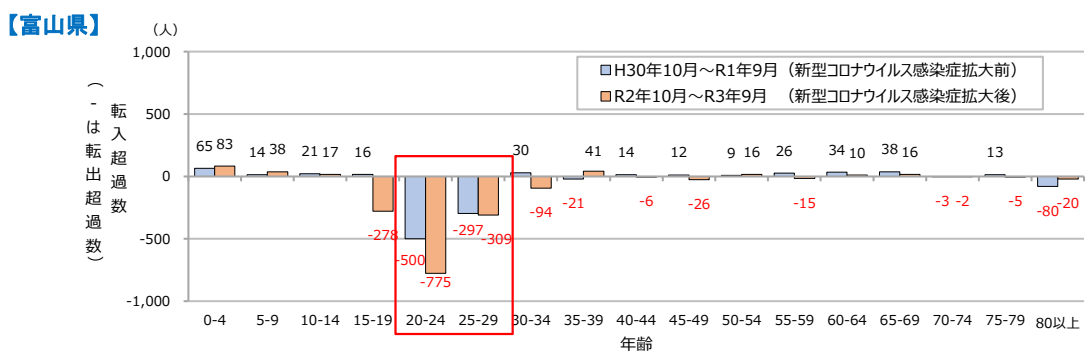
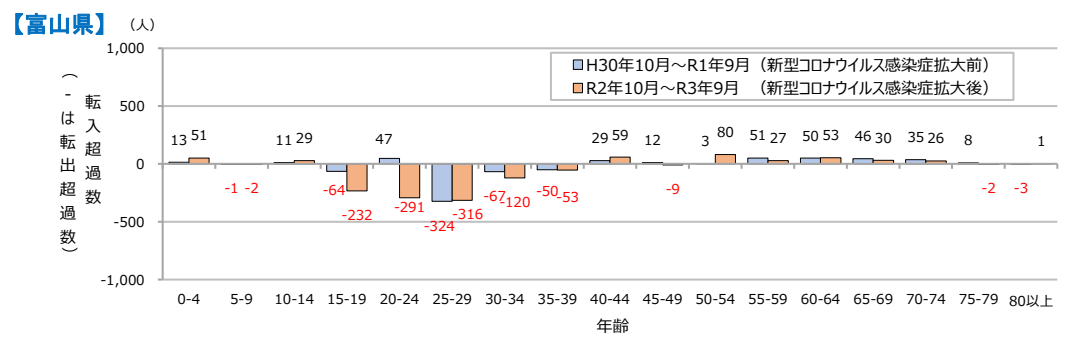
② 県外移動の現状

・ さらに、世代別県外移動を性別で見ると、石川県の20代男性の転出が大きく増加したほか、各県とも20代女性の転出超過が顕著となっている。

● 世代別県外移動（性別）

(男性)

(女性)



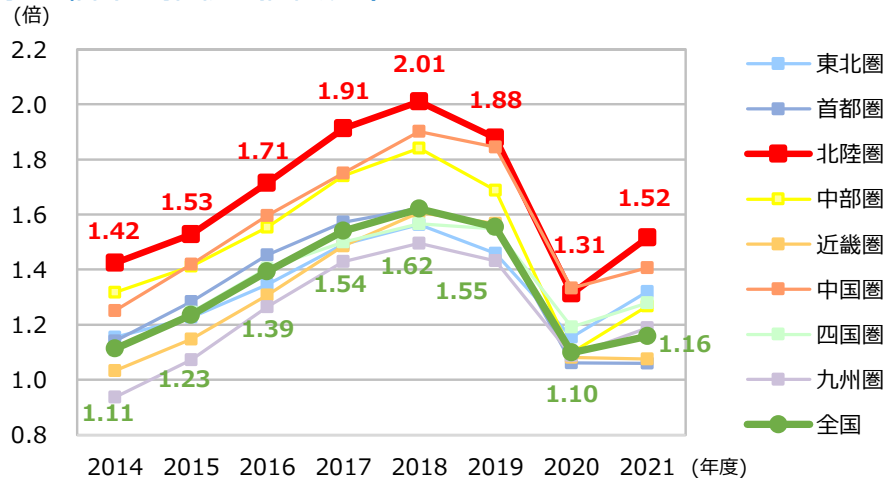
出典: 富山県の人口(富山県),石川県の人口と世帯(石川県),福井県の推計人口(福井県)

1. 進む人口減少・少子高齢化

② 県外移動の現状

- ・ 有効求人倍率を見ると、北陸は全国に比べて高い水準にあり、仕事が無いということではない模様。
- ・ 大卒者の初任給を見ると、北陸3県は全国よりも若干低い程度であるが、東京都と比較すると10～15%程度の差がある。
- ・ 1人あたり県民所得も同様に東京都と比較すると20%以上の差がある。一方、都道府県別の中間層の経済的豊かさ※1で見れば北陸3県は東京都を上回る。

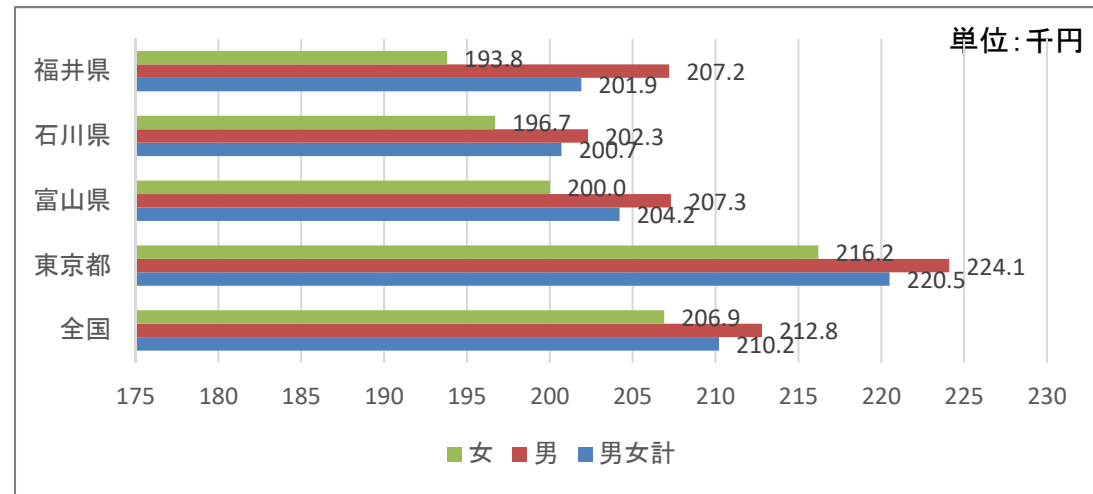
● 有効求人倍率の推移（圏域別）



圏域\年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
東北圏	1.15	1.23	1.35	1.49	1.56	1.46	1.15	1.32
首都圏	1.14	1.28	1.45	1.57	1.62	1.56	1.06	1.06
北陸圏	1.42	1.53	1.71	1.91	2.01	1.88	1.31	1.52
中部圏	1.32	1.41	1.55	1.74	1.84	1.69	1.10	1.27
近畿圏	1.03	1.15	1.31	1.49	1.61	1.57	1.08	1.08
中国圏	1.25	1.42	1.60	1.75	1.90	1.84	1.33	1.41
四国圏	1.11	1.24	1.40	1.50	1.57	1.55	1.19	1.28
九州圏	0.94	1.07	1.26	1.43	1.50	1.43	1.09	1.19
全国	1.11	1.23	1.39	1.54	1.62	1.55	1.10	1.16

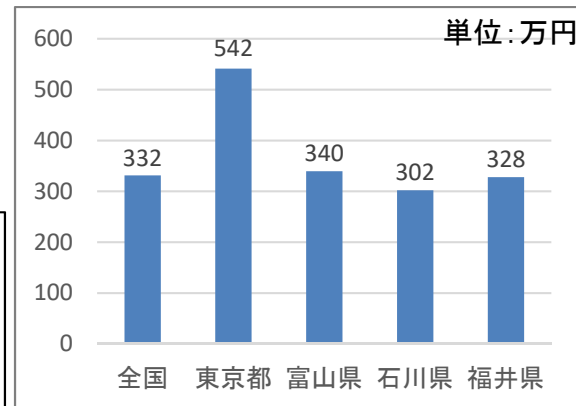
出典：一般職業紹介状況（厚生労働省）

● 大学卒・県別初任給（月額）



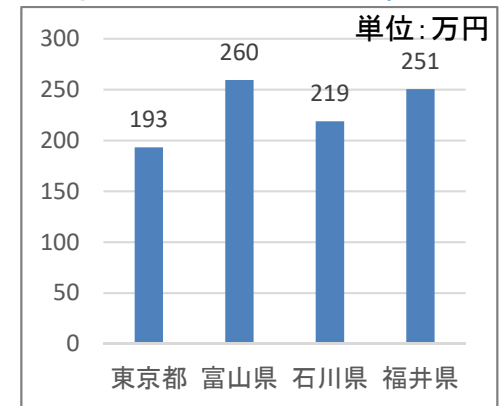
出典：令和元年賃金構造基本統計調査（厚生労働省）

● 1人あたり県民所得（年間）



出典：県民経済計算 平成30年度（内閣府）

● 都道府県別の経済的豊かさ※1（可処分所得-基礎支出）



出典：都道府県別の経済的豊かさ（国土交通省国土政策局）

※1 「都道府県別の経済的豊かさ(可処分所得-基礎支出)」は、中央世帯(※2)における可処分所得から基礎収支(※3)を差し引いた金額

※2 中央世帯とは、都道府県ごとに可処分所得の上位40～60%の世帯を言う

※3 基礎支出＝「食料費」＋「(特掲)家賃＋持ち家の帰属家賃」＋「光熱水費」

なお、「持ち家の帰属家賃」は全国消費実態調査で推計しているもの

(注1)世帯はすべて2人以上の勤労者世帯(単身又は経営者等は含まない)

(注2)中央世帯の数値については、統計法に基づいて、独立行政法人統計センターから「全国消費実態調査(H26)」(総務省)の調査票情報の提供を受け、国土交通省国土政策局が独自に作成・加工した統計であり、総務省が作成・公表している統計等とは異なる

1. 進む人口減少・少子高齢化

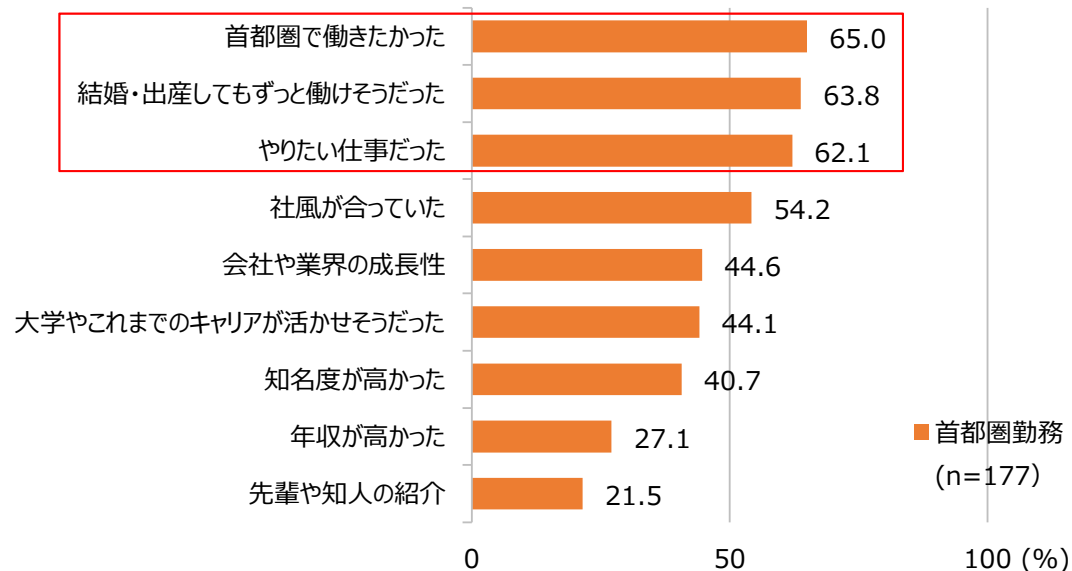
② 県外移動の現状

- 女性の転出超過に着目し、北陸出身の首都圏在住女性を対象としたアンケートによると、首都圏の職場を選んだ理由としては「首都圏での勤務」の希望や「結婚後の働きやすさ」「やりたい仕事」などを挙げ、働くうえでは「希望の職種」や「結婚後の働きやすさ」「やりがいのある仕事」が重要視されている。

● 北陸出身で首都圏在住の女性のフルタイム勤務者及び学生を対象とした就業意識に関する実態調査

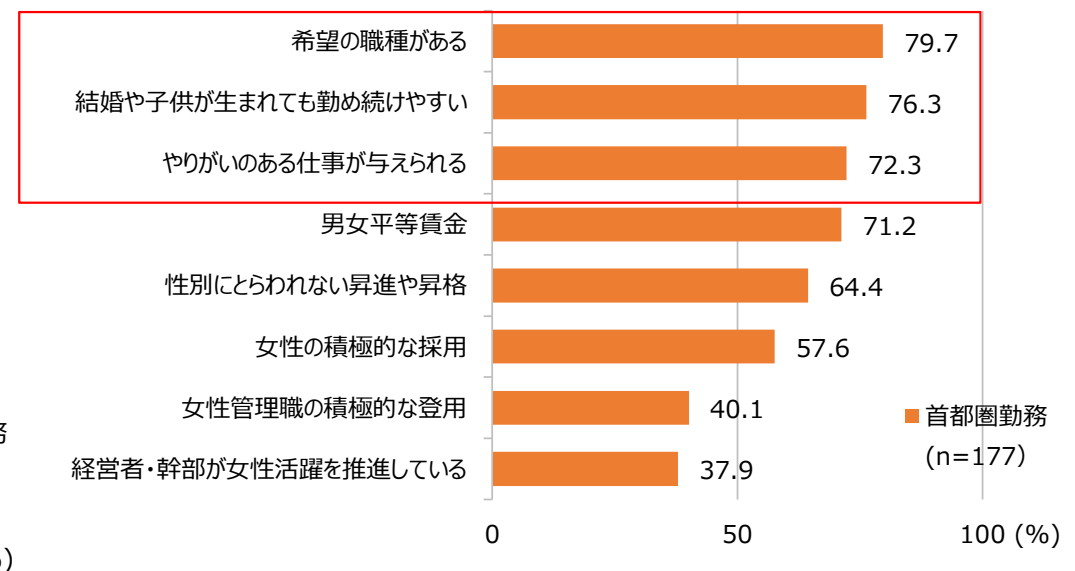
■ 現在働いている組織を選んだ理由

- あなたが現在働いている組織を選んだ理由として、以下の項目それぞれ「あてはまる」「あてはまらない」でお答えください。



■ 働いていく上で重視する項目

- あなたが働いていく上で、以下の項目それぞれの程度重要ですか。



出典：女性の就業意識に関する実態調査(2020)(北陸経済連合会)

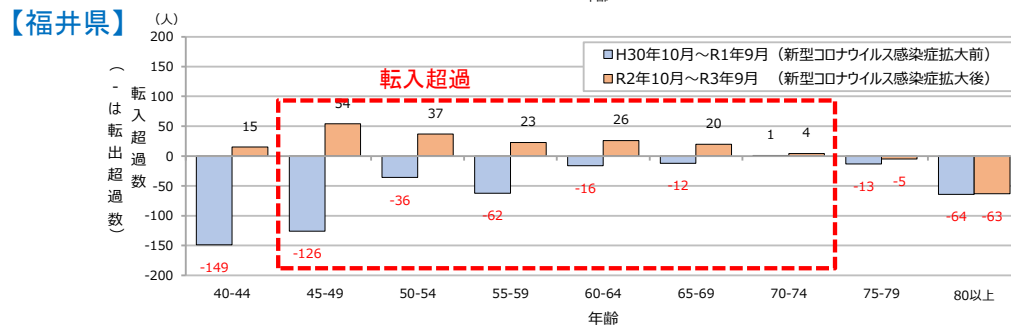
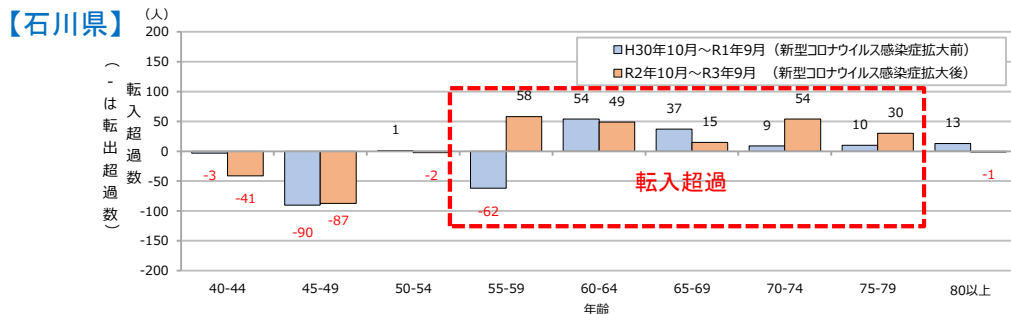
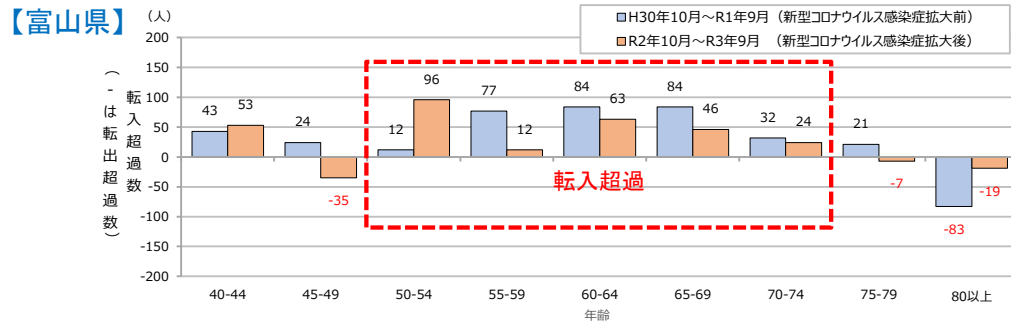
1. 進む人口減少・少子高齢化

② 県外移動の現状

- 一方、50代から70代の中高年齢層では県外からの転入者が転出者を上回っており、中高年世代では北陸圏にUターン、あるいはIターンしている人が一定数存在している。
- 各県では、移住、就業(就農)を支援する制度がある。

● 世代別の県外移動 (再掲)

・ 50代から70代の中高年齢層では、県外からの転入者が転出者を上回っている。



出典: 富山県の人口(富山県), 石川県の人口と世帯(石川県), 福井県の推計人口(福井県)

● 移住支援、就業支援制度の例

富山県移住支援制度とは？

東京23区(在住者又は通勤者)から富山県へ移住し、移住支援金対象求人(就業した方等に、国・県・市町村が共同で移住支援金を支給する制度です。)(※100万円(単身の場合は60万円))

富山県へ移住し、対象の法人へ就職!

東京23区(在住者または通勤者)から

さらに、子育て世代には18歳未満の子供1人につき、30万円を上乗せして支給いたします。
※ただし、子育て世代の加算分については、令和4年4月1日以降に、移住・就業したものに限りません。

富山県移住支援制度
移住支援金の対象求人(富山県HPより)

新規就農者経営支援事業補助

◆50歳未満の方

- 内容** 青年の新規就農者に対し、就業資金を交付します。
- 対象となる方** 新規就農者(50歳未満)で前年の世帯所得が600万円未満の方
- 補助金額など** 年間最大150万円(就業してから最長3年間まで)

◆50歳以上の方

- 内容** 青年以外の新規就農者に対し、就業奨励金を交付します。
- 対象となる方** 新規就農者(50歳以上60歳未満)
- 補助金額など**
 - 非農家出身者 毎月15万円(1年目)
 - 毎月10万円(2年目)
 - 毎月5万円(3年目)
 - 兼業農家出身者 毎月15万円(1年間)
 - 専業農家出身者 毎月5万円(1年間)

問合せ先 農業林業振興課 農業振興グループ(64-4818)



新規就農者経営支援事業補助
(福井県大野市助成制度ガイドブック令和4年度より)